

自転車 の基礎情報



平成29(2017)年7月20日 No. 21

シティ車 英式バルブのリムナットとキャップ

シティ車の取扱説明書には、「日常点検」として「各部のネジのゆるみを確認」という項目が記載されていることが多いのです。ネジは緩むものなので、通常、緩んだら工具で適正にしっかりと増し締めをしなければなりません。中には、工具による増し締めをしてはいけないネジもあります。シティ車のリムナットはその一例です。

シティ車には英式バルブが使用されていますが、そのバルブのリムナットは役割が違います。リムナットはバルブの傾きや、バルブのタイヤ内部への沈み込みを防ぐ役割を担っています。部品などを固定する役目ではないので、リムナットは指でしっかりと締める程度で十分です。

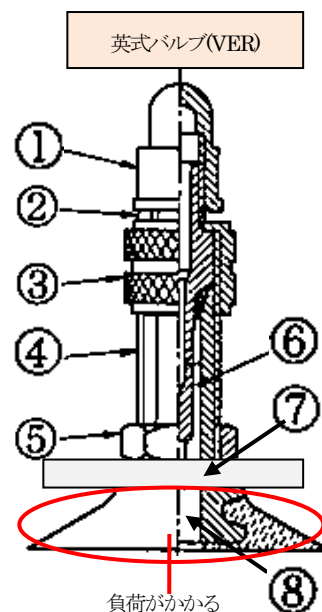
例えば、自転車利用が多くなりがちな夏休みに備えて、シティ車のタイヤに空気を入れようとしたときに、リムナットが緩んでいることに気がついたとします。その際、工具でしっかりと締め込んでしまうと、意に反してパンクの原因になってしまうことがあります。

その理由を右図で説明すると、⑤のリムナットを工具で締めていくにつれ、ネジを切っているバルブボディを上の方に持ち上げようとする力が働き、リムに押し付けられたままの状態、赤色の線で囲ったバルブボディとチューブの接合部(接合部)に負荷がかかります。まだまだ締まると感じてさらに締め込んでいってしまうと、接合部にもっと大きな負荷がかかり、最終的には破損・パンクしてしまうこともあるのです。

また、タイヤの空気圧が低い場合でも接合部からパンクしてしまうことがあります。タイヤの空気圧が低いとタイヤの内部でチューブが動きやすくなります。乗車中車輪は回転しているため、チューブは動こうとしているのにバルブボディはリムナットで留められているため、接合部に負荷がかかってしまうことにより破損します。多くの場合、接合部が破損し空気が抜けるとパンク修理はできないのでチューブ交換になります。通常、パンク修理に比べてチューブ交換の費用は割高になります。

ところで、ここまで英式バルブについて説明をしてきましたが、空気を入れるときは、まずキャップの取り外しをします。キャップの役割は空気を入れるバルブの穴に水分やごみが入らないようにしているのです。キャップは小さな部品ですが、ちゃんと役割があるので失くさないようにしましょう。

次号は、平成29年9月20日に発行を予定しています。
8月の発行はお休みします。



- ① キャップ
- ② プランジャー
- ③ バルブナット
- ④ バルブボディ
- ⑤ リムナット
- ⑥ 虫ゴム
- ⑦ リム
- ⑧ バルブボディとチューブの接合部

<発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jpbi.or.jp>